



番号	作品名	作者名	地域/年代	材質技法	所蔵
11	寿老人図 じゅろうじんず	狩野芳崖 かのうほうがい	明治10年代前半頃 (1877~82)	紙本墨画淡彩	泉屋博古館東京
12	白玉共蓋香炉 はくぎよくともぶたこうろ		中国・清時代	玉	泉屋博古館
13	春秋山水図 しゅんじゅうさんすいず	橋本雅邦 はしもとがほう	明治37年 (1904)	紙本墨画	泉屋博古館東京
14	畫扇救窮 がせんきゆう	富岡鉄斎 とみおかてっさい	大正11年 (1922)	紙本墨画淡彩	泉屋博古館東京
15	提梁竹籠花入 ていりょうたけかごはないれ			竹	泉屋博古館
16	扇面画帖 せんめんがじょう	滝和亭 たきわてい	明治33年 (1900)	絹本墨画着色	泉屋博古館東京
17	花卉・文房花果図巻 かき・ぶんぼうかかずかん	村田香谷 むらたこうこく	明治35年 (1902)	絹本着色	泉屋博古館東京
18	寿老人・梅亀・松鶴図 じゅろうじん・うめかめ、しょうかくず	畑仙齡 はたせんれい	大正7年 (1918)	絹本着色	泉屋博古館東京

## 第2章：床映える日本画

番号	作品名	作者名	地域/年代	材質技法	所蔵
19	寿老図 じゅろうず	尾竹竹坡 おたけちくは	明治45年頃 (1912)	絹本墨画淡彩	泉屋博古館東京
20	出山釈迦図 しゅつざんしゃかず	橋本雅邦 はしもとがほう	明治20年代初頃 (1887~92)	紙本墨画淡彩	泉屋博古館東京
21	詩経天保九如章図 しきょうてんぼうきゅうじょしょうず	富岡鉄斎 とみおかてっさい	大正12年 (1923)	紙本墨画淡彩	泉屋博古館東京
22	神籬之図 かみびなのず	上田耕甫 うへだこうほ	昭和6年 (1931)	絹本着色	泉屋博古館東京
23	四時競甘 しいじきょうかん	岸田劉生 きしだりゅうせい	大正15年 (1926)	絹本着色	泉屋博古館東京
24	牡丹図 ぼたんず	細谷立齋 ほそやりっさい	明治42年 (1909)	絹本墨画淡彩	泉屋博古館東京
25	春芳秋草図 しゅんぼうしゅうそうず	西川一草亭 にしかわいつそうてい	昭和8年 (1933)	紙本着色	泉屋博古館東京
26	秋野孤鹿 しゅうやころく	木島櫻谷 このしまおうこく	大正7年 (1918)	絹本着色	泉屋博古館東京
27	松樹に栗鼠図 まつじゅにりすず	平福百穂 ひらふくひやくすい	大正~昭和初期頃 20世紀	絹本墨画淡彩	泉屋博古館東京

## 第3章：「床の間芸術」を考える

番号	作品名	作者名	地域/年代	材質技法	所蔵
28	partition	小林明日香 こばやしあすか	令和5年 (2023)	ミクストメディア	作家蔵
29	ニュー・オランピア	松平莉奈 まつだいらりな	令和5年 (2023)	紙本着色	作家蔵
30	水の三態 みずのさんたい	菅原道朝 すがわらみちとも	令和5年 (2023)	紙本着色	作家蔵
31	Water	澁澤星 しぶさわせい	令和5年 (2023)	紙本着色	作家蔵
32	Water (Leaves Floating on Water)	澁澤星 しぶさわせい	令和5年 (2023)	紙本着色	作家蔵
33	『室内装飾法』 しつないそうしよくほう	近藤正一 こんどうしょういち	明治43年刊行 (1910)		個人蔵
34	『バクダン』	内田魯庵 うちだろあん	大正11年刊行 (1922)		個人蔵
35	絵葉書 錦木清方《妓女像》 かぶらきぎよかた《ぎじょぞう》		昭和9年 (1934)		個人蔵

番号	作品名	作者名	地域/年代	材質技法	所蔵
36	『銀砂子』 ぎんすなご	鍋木清方 かぶらききよかた	昭和9年刊行 (1934)		個人蔵
37	「会場芸術と床の間芸術」(『現代日本画壇 京都』) 「かいじょうげいじゅつとこのまげいじゅつ」	竹内栖鳳 たけうちせいほう	昭和5年刊行 (1930)		個人蔵
38	禁城松翠 きんじょうしゅうすい	竹内栖鳳 たけうちせいほう	昭和3年 (1928)	絹本着色	泉屋博古館東京
39	Khora	水津達大 すいづたつひろ	令和5年 (2023)	紙、アルミ・墨	作家蔵
40	森の夜 もりのよる	長澤耕平 ながさわこうへい	令和5年 (2023)	紙本着色	作家蔵
41	植物の睡眠 しょくぶつのすいみん	長澤耕平 ながさわこうへい	令和5年 (2023)	紙貼交	作家蔵

### 特集展示：住友と床の間（第4展示室）

番号	作品名	作者名	地域/年代	材質技法	所蔵
42	阿蘭陀入来之控 おらんだにゅうらいのひかえ		寛政元年 (1789)	紙本墨書	住友史料館
43	紅毛人入来之控 こうもうじんにゅうらいのひかえ		文政元年 (1818)	紙本墨書	住友史料館
44	道具控 どうぐひかえ		宝暦9年 (1759)	紙本墨書	住友史料館
45	別子銅山図 べっしどうざんず	太田南畝賛 おおたなんぼ 丹羽桃溪画 にわたんけい	江戸時代後期 (19世紀)	絹本着色	泉屋博古館
46	住友家正月床飾り（小鉾、吹炭、床尻銅） すみともけしょうがつとこかざり （こばく、ふきずみ、とこじりどう）				住友史料館
47	寿老人・月に竹梅・旭日に松 じゅうろうじん・つきにちくばい・きょくじつにまつ	伝狩野伊川院栄信 かのういせんいんながのぶ	江戸時代後期 (19世紀前半)	絹本着色	泉屋博古館
48	倣谷文晁山水図 ほうたにぶんちやうさんすいず	李義養 イ・ウィヤン	朝鮮王朝・純祖 18年 (1818)	絹本墨画	泉屋博古館
49	年々諸用留 ねんねんしやうとめ		宝暦9年 (1759)	紙本墨書	住友史料館

### 【次回展のお知らせ】

企画展 うるしとともに一くらしのなかの漆芸美

同時開催：特集展示「受贈記念 伊万里・染付大皿の世界」

アジアの人々が見出した不思議な樹液、漆。ある時は天然の接着剤、またある時には表面に艶と光沢を与える塗料として活用されてきました。そして各地域の特性や美意識に応じて様々な技法が花開き、生み出された多彩な漆芸品は東洋の人々のくらしに深く根差してきました。本展では、住友コレクションの漆芸品の数々を、用いられてきたシーンごとにひもとくことで、漆芸品を見るたのしみ、使うよろこびについてももう一度考えたいと思います。また同時開催として、漆芸品と同じく私たちのくらしを彩ってきた陶磁器のなかから、近年当館へご寄贈いただいた瀬川竹生コレクションの染付大皿を受贈後初めて公開します。江戸時代後期に佐賀県・有田地域でつくられた染付大皿の斬新で大胆な意匠は、圧倒的な迫力で、粋な青と白の世界へみなさまを誘います。

**会 期** 2024年1月20日（土）～2月25日（日）  
**休 館 日** 月曜日（2月12日は開館）、2月13日（火）  
**開館時間** 午前11時～午後6時（入館は午後5時30分まで）  
\* 金曜日は午後7時まで開館（入館は午後6時30分まで）  
**会 場** 泉屋博古館東京（東京・六本木）  
**入 館 料** 一般1,000円 高大生600円 中学生以下無料  
\* 20名以上は団体割引料金（一般800円、高大生500円）  
\* 障がい者手帳ご呈示の方は無料



象彦《扇面謡曲画時絵会席器・椀》大正時代・20世紀 泉屋博古館